

令和7年度 学校関係者評価の報告

1 本年度の重点目標

進んで学び、温かく、生き生きとした子どもの育成

2 本年度の経営方針

【「生き生きと 心も体も健康・Active」な教育課程
～みんなの笑顔につながる教育活動の推進～】

言評価の見方

- ・A・B・Cの三段階で評価を行っています。
- ・評価者評価(右の欄)にある数字は、Aを3点、Bを2点、Cを1点として集計した数値です。(評価者6名なので満点は18点)

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
「心の栄養」を育む	探究が持続する学習の構築や子どもの意志ある活動につながる働きかけを行うことで、子どもの主体性は高まったか。	A	言われたことを受動的にやるのではなく、子どもたちが「やってみたい」「考えてみよう」と主体的に学ぼうとする力や自分の考えや思いを伝え合うことを大切に授業づくりに励んできた。これからも、我々教員は日々の授業の充実に努めていく。	A 18	A 18
	札幌らしい特色ある学校教育を推進することで、子どものふるさと札幌への思いは高まったか。	A	スキーだけでなく、スポーツ雪合戦を体育の授業に取り入れ、雪に親しむ時間を十分取ることができた。また、総合的な学習では、環境や福祉など地域と関わりながらの学習も進めることができた。今後も、自分たちの住む札幌へ関心をもたせ、雪や読書、環境という観点で教育課程を見直していくようにする。	A 18	A 18
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの楽しそうな雰囲気を感じます。 ・子どもたちの自主性や主体性を伸ばすために、先生方が多様な取組を行い、成果につながっている。 ・授業中だけでなく、休み時間においても子どもたちが主体的に取り組める環境がある。 				
「命を大切にされた指導」を推進する	道徳教育を中心に、教育活動全体を通して豊かな心を育む指導を進めることで、子どもの行動や心の変容は見られたか。	A	道徳教育の充実により、子どもたちが自ら挨拶をしたり、仲間と良い関係を築けたりしている。更に効果をあげられるよう引き続き教育活動全体で指導の充実を図る。	A 18	A 18
	日頃から安全に関する指導を行うことや、いじめや不登校への兆候を早期に発見し迅速に対応することで、子どもが安全に、安心して学校生活を送ることはできていたか。	A	シャボテンログで毎日の健康観察を行い、また学期毎にアンケートを実施し、悩みやいじめ等の把握をした。月一回の生徒指導委員会で情報共有もしている。これからも、いじめ案件や不登校の未然防止・早期対応を心掛け、教職員全体で情報の共有を行い、有効な手立てを考えていく。	A 18	A 18
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶については、年々向上が見られ、地域の活性化につながっている。 ・いじめ、不登校に関わることは、先生一人では抱えきれない問題で、職員間の情報共有・連携がとても重要である。 ・先生方が、いつも真摯に丁寧に向き合っていて、安心できる場づくりにつながっている。 				
「健康教育」を推進する	授業での運動量の確保や「ノホロスポートウィーク」の推進により、子どもの運動習慣が醸成され、体力の向上につながったか。	B	今年度も休み時間に縄跳びや自分たちの企画した運動にチャレンジするノホロスポートウィークの取組を位置付けた。一時的ではあるが体を動かす児童が増えるなど効果はあった。来年度は、体育授業等で「縄跳カード」の取組をより充実させていくとともにスポーツウィークの取組を継続・発展させていく。	A 18	A 18
	教科学習や総合的な学習の時間、食指導や保健指導、出前授業等を通して、子どもが健やかな生活習慣を身に付けようとする意識は高まったか。	A	栄養教諭による食指導や外部講師による性指導などを実施したことにより、自分の身体や健康について意識するようになってきている。更なる生活習慣の定着のために事前事後指導を確実にやっていく。	A 18	A 18

学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもの意思を尊重しながらも、子ども自身が目標や課題に向き合えるように働きかけてほしい。 • 子どもたちは、家庭で、何に一番時間を使っているのでしょうか。スマホ、ゲーム、外で遊ぶ？ • 外部講師による指導は、子どもたちにとって新鮮で、とても身になると思う。 				
家庭・地域との連携	<p>参観懇談や個人懇談、普段の連絡のやり取りを通して、保護者と連携し、子どもの成長を共に支えることはできたか。</p>	A	<p>日頃から電話等で保護者と情報の共有を図り、子どもの様子を家庭と学校で共有し、連携することで、子どもの成長を支えることができています。また、すぐーるを活用した情報発信にも努めた。今後も一層の連携が図れるよう、家庭との情報共有を丁寧に行っていく。</p>	A 18	A 18
	<p>パートナー校である上野幌中学校と連携し、活動に取り組むことで、系統性・連続性のある「課題探究的な学習」が充実したか。</p>	A	<p>今年度は、6月に小学校の授業2本を公開し、10月に中学校の授業を2本公開した。子どもの姿を見合う中で、発達段階に応じた課題探究的な学習を充実させることができた。来年度は、教員の連携を更に強め、お互いの強みを共有できるようにしていく。</p>	A 18	A 18
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> • 中学校との連携が、年々進んでいることが分かった。幼保小中が連携できることは、とても理想的。 • 保護者、地域が協力的なのは大変素晴らしく、学校の関係づくりの賜物。今後も「人財」を大切にしていってほしい。地域には、年配の知恵袋がたくさんあります！どんどん利用してください。 				
学年・学級経営	<p>子どもの育ちなどの情報を日々の打合せや生徒指導委員会で共有することで、学年で児童を育てる学年経営が充実し、よりよい子どもの育ちにつながったか。</p>	A	<p>子どもの育ちや子どもの小さな変化などを職員室で声に出すことで、学年やブロック、担任外の教職員にまで情報が共有され、多くの教職員で子どもに関わることができている。今後も丁寧に情報共有を行い、積極的に関わりながら、全教職員で子どもの育ちを支えていく。</p>	A 18	A 18
	<p>合同授業や教科担任制、専科指導を取り入れ、複数の目で子どもの育ちを見とることで、子どものよさや可能性を引き出すことができたか。</p>	A	<p>学年合同授業、教科担任制、専科指導の取組は、子ども理解と、子どものよさを引き出すという観点で有効であった。来年度も担任の専門性や子どもの特徴を加味しながら、有効な指導法を模索していく。</p>	A 18	A 18
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> • 学校全体で、子どもたちの育ちを支えていることが分かる。教科担任がよりパワーアップしている。 • 担任の先生以外にも、子どものことを知っている先生が多いことは、支えがたくさんあり、安心感につながる。担任外の教職員にまで情報共有がされていると、何か問題が起きても、スムーズに解決できると思う。 				
進んで温かく生き生きと働くための職場づくり	<p>授業の充実に向けた研修や教育課程の改善に向けた提案や実践を行うことで、よりよい授業や教育課程の構築を行うことができたか。</p>	A	<p>全学級で研究授業を公開し、授業のねらいが達成できたか、改善点はどこにあるかを検討するなど、教員同士が互いに学び合う時間を充実させてきた。来年度も、子どもと保護者が伸びを実感できるよう、「授業と評価の一体化」を進めていく。</p>	A 18	A 18
	<p>教職員が自分の仕事に誇りを持ち、仲間の仕事を尊重することで、協働的に取り組む意識と同僚性が向上したか。</p>	A	<p>教職員それぞれがよさを認め合い、自分の仕事に責任をもって取り組んでいる。また、お互いの取組や成果を職員同士で声に出して認め合う姿も見られる。教職員が入れ替わっていく中でも、ノホロの文化として協働の意識と同僚性を継続していけるようにする。</p>	A 18	A 18
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> • 授業を参観して、先生方の言葉かけ、環境の作り方が、子どもたちの目線に合ったものになっていて、どの子どもも参加しやすい授業になっていた。 • 先生方の雰囲気すごく良い学校だと思う。今後も働きがいを感じられる環境づくりをお願いします。 				